Ⅰ．　ウェビナー記録

1．プログラム

タジキスタン共和国投資・国有資産管理委員会プレゼンテーション
「タジキスタン共和国の投資ポテンシャル」
プログラム

◆日　時：　2021年2月18日（木）15:00～16:00（タジキスタン時間　11:00-12:00）
◆主　催：　（一社）ロシアNIS貿易会、在日タジキスタン共和国大使館
◆協　力：　経済産業省、タジキスタン共和国投資・国有資産管理委員会
◆言　語：　日露同時通訳
◆会議システム：Zoom

日本時間 （タジク時間）	プログラム
15:00-15:05 （11:00-11:05）	◆開会・議事説明 輪島　実樹　（一社）ロシア NIS 貿易会　ロシア NIS 経済研究所　部長
15:05-15:10 （11:05-11:10）	◆日本側開会挨拶 明石　和彦（一社）ロシア NIS 貿易会　専務理事
15:10-15:15 （11:10-11:15）	◆タジキスタン側開会挨拶 ミルゾシャリフ・ジャロロフ　駐日・タジキスタン共和国特命全権大使
15:15-15:35 （11:15-15:35）	◆タジキスタン共和国投資・国有資産管理委員会報告 「タジキスタンへの投資：グリーン・エコノミーへの投資」 アフマジョン・シェラリゾダ　第一副議長 ハキム・イスマイルゾド　投資支援局副局長
15:35-15:40 （11:35-11:40）	◆タジキスタン共和国の投資ポテンシャルについてビデオプレゼンテーション
15:40-15:50 （11:40-11:50）	◆ZAO「アヴァリン」社による報告 マヌチェル・ガドエフ　社長
15:50-16:00 （11:50-12:00）	◆質疑応答
16:00 （12:00）	◆閉会

２. 報告・質疑応答

シェラリゾダ・タジキスタン共和国投資・国有資産管理委員会　第一副議長　　挨拶

尊敬する同僚の皆さま、尊敬する明石和彦様、尊敬するジャロロフ大使、同僚、友人の皆様、先ほど大使がご挨拶したとおり、本ビデオ会議の開催と組織に対し、私からもROTOBO様にお礼申し上げたい。また、これが最初で最後のウェビナーでないことを期待している。なぜならパンデミックという状況下であっても、ビジネス界と連絡を絶やすことなく、タジキスタンの投資の可能性に関する情報を発信していくことが必要だからである。本日のウェビナーは、両国のビジネス界の連携に向けた刺激、契機となることを確信している。

我々は、日本とのビジネス関係の発展を目指している。両国間には素晴らしい法的基盤が整備されている。また政治レベルにおいては、両国首脳間で、また支援機関レベルでは、JICAやJBICといった機関との間で良好な関係が維持されていることは大変喜ばしいことである。JICAの支援によって、日本留学のためのグラントや、MBAコース、Ph.Dコースなどのための奨学金が提供されている。このような支援に対し、日本政府、日本国民に深く感謝申し上げる。

ではここから、なぜ日本の投資家や企業がタジキスタンに投資すべきなのかということについて、手短に申し上げたい。それには３つの要因がある。

第１に、タジキスタンは政治的に安定しており、安全であること。格付け機関が実施した国際的な格付けによれば、地政学的、地理的な立地条件にも係らず、タジキスタンはウズベキスタンとともに世界で最も安全な国の１つである。

そして第２に、タジキスタンには、法律面でも、また投資やビジネス開発の面でも、国際基準に合致した、極めて現代的にアレンジされた法制度が存在することである。

３番目は、巨大な地域市場、つまり、30億人以上が暮らす市場へのアクセシビリティである。

私の報告はここまでとし、タジキスタンのより詳細な投資環境について、投資促進局副局長のハキム・イスマイルゾドにご報告いただくこととする。本ウェビナーを組織いただき感謝申し上げる。また、ウェビナーの最後に、ご質問に喜んでお答えしたい。

ご清聴ありがとうございました。

イスマイルゾド・タジキスタン共和国投資・国有資産管理委員会投資支援局　副局長
報告「タジキスタンへの投資:グリーン・エコノミーへの投資」

日本企業の皆様の前でタジキスタンの可能性について報告させていただけることを嬉しく思う。

タジキスタンの可能性について、またタジキスタンから日本企業への提案について、簡潔に報告したい。すでに日本との合弁企業が存在しているということは、とりもなおさず、タジキスタンには開発、利用すべきものがあるということに他ならないと考えている。

地図にある通り、タジキスタンは地理的に恵まれた場所に立地している。中央アジアの心臓部にあって、物流や輸送に大きな可能性を有している。またタジキスタンを、1,000万人市場としてではなく、アフガニスタン、中国、ウズベキスタン、カザフスタンといった隣国と併せて巨大な可能性を持つ市場として評価する必要がある。500km四方の地域に、数十億もの人口を抱える市場が存在しているのである。利用する必要のある資源があると言い換えることもできる。より明確で入念な下調べに基いて、将来の連携と協力のために、タジキスタンの物流や輸送の可能性を活用し、合弁企業を設立する可能性がある、ということになる。

タジキスタンには国家戦略と国家プログラムがある。2030年をターゲットイヤーとした「タジキスタン共和国発展グローバル戦略」という非常に視野の広い戦略であり、ここにはタジキスタンの2030年までの主要な優先課題が示されている。また、エネルギー自給の確立、運輸・通信の行き詰まり状態からの脱却、食糧の安全保障の達成、工業化の加速といった４つの戦略目的も含まれている。さらにこの戦略の枠内で、現在、2021年から2025年の中期発展を実施している。この計画には対象期間内に実現すべき課題が反映されている。

しかし我々にとって重要なプログラムと目的は、第４の戦略目的（＝迅速な工業化－編者）の実現を目指して策定された、2021年から2025年を対象期間とする「タジキスタン共和国の迅速な工業化プログラム」である。迅速な工業化は、尊敬する我が国民のリーダー、エモマリ・ラフモン大統領が教書演説で指摘している。

2021年１月26日、尊敬する我らが国民のリーダー（＝ラフモン大統領－編者）は年次教書の中で、我々が近い将来実現することになる以下のイニシアチブを述べた。１つ目は国際財務報告基準への移行と、電子調達を含むデジタル・ファイナンスへの移行、２つ目は経済活動にかかわる申請書類提出・審査、ライセンス・許認可・証明書発行へのデジタルシステムの導入、３つ目はタジキスタン共和国大統領付属イノベーション・デジタル技術庁の設立である。当然のことながら、イニシアチブはこれだけではないが、上記３点はタジキスタンにおけるビジネス活動、金融活動にとって最も重要なものである。

ここからは、タジキスタンのマクロ経済について話したい。御覧の通り、タジキスタンの経済は安定している。2020年までのGDPの平均成長率は約7.5％であった。コロナウィルス流行の影響を受け、他国の経済と同様、タジキスタンの経済も打撃を受けた。だがそれにもかかわらず、タジキスタンの経済は中期的に非常に持続的な伸びを示している。2020年のこの地域のGDP成長率の加重平均が3.5％であったのに対し、タジキスタンのGDP成長率は4.5％であった。つまり、タジキスタンの経済は発展中であり、さらなる伸びしろがあり、よって日本を含めより多くの投資を誘致する必要があるということである。

タジキスタンのGDP構成の大部分が農業、工業、建設業である。これは、経済の基幹産業である農業は言うに及ばず、工業、建設業発展の条件が整備されているということに他ならない。人口の70％が農村地帯に集中していることもあり、このようなGDP構成になっている。

投資、特に外国からの投資流入に関して指摘しておきたい。コロナウィルスの流行で、他国同様、タジキスタン向けの2020年の外国投資流入額は減少した。国際機関や国際的な研究機関は、世界各国の外国直接投資流入を約50％減と予測した。タジキスタンもパンデミックの影響を受け、2020年の直接外国投資の減少率は53％であった。とは言え、過去10年間、タジキスタンには約100億ドルの投資が流入している。2015～2018年、タジキスタンの投資傾向は全体的に順調で、かつ、投資を促進する条件も整備されている。

部門別の投資先について見ると、タジキスタンは鉱物資源、天然資源に恵まれており、投資の中心はまさにこの採鉱分野である。過去５年で約10億ドルがこの分野に投資されている。強調したいのは、外国人を含む投資家は、タジキスタンの鉱物資源採掘の可能性に関心を寄せていることである。またタジキスタンでは運輸・通信も発達しつつある。これは、過去数年間に多くの国際級の道路が建設されたことと関係している。建設業も発展中である。タジキスタンの建設ブームは、雇用創出や国庫歳入の増加など、経済に肯定的な影響を及ぼしている。

投資家の国別分類を見ると、中国やロシアなどの隣国が主要投資国であることは言を俟たない。だが、イギリス、フランス、トルコ、スイスからの投資も増加している。タジキスタン向け投資家も多様化しているのである。経済規模が小さいタジキスタンとしては、開発パートナーとなる国の多様化に益がある。つまり、限られたいくつかの国だけに依存すべきではない。日本からの投資に関しては、幾分残念な状態にある。日本からタジキスタンへの投資流入は極わずかな額である。このようなウェビナーは、両国間の関係を発展させ、日本企業のタジキスタンへの誘致を促進してくれるものと信じている。

再び2020年の状況に話を戻したい。タジキスタン向け投資国の中で、主要な位置を占めているのは依然として中国とロシアである。2019年と2020年を比較してみると、パンデミックの影響で投資流入額が減少しているのがわかる。しかしながら、我々は投資誘致のために尽力し、

ここに提示されている指標になった。

投資を語るとき、貿易を忘れることはできない。当委員会の分析の結果に基づいて、外国企業や投資家が関心を寄せる300種以上の輸入代替分野を選定した。合弁企業を設立し、この300種類以上の分野で活動することができる。そうすることで輸入代替を達成し、雇用を創出し、製造した製品を輸出できる。日本企業はこの可能性をより深く知ることができるし、我々としてもこの方向性で協力する用意がある。

ビジネスに関しては、タジキスタンは若い国ではあるものの、この地域でビジネスを実施するための良好な環境を有している。タジキスタンの法制度は、国際実務で用いられている先進的な国際的法文書と調和し、整合性がとれているのである。

また、利益の本国送金が自由にでき、国内の資源へのアクセスに制限はないことも指摘しておきたい。さらにタジキスタンでは、外国企業と国内企業間の差別がない。法の下では、外国投資家にも、国内投資家にも、同等の権利が与えられている。国内企業向けに整備した機会を、外国企業向けにも整備する。日本企業もタジキスタン企業と同様に機会を利用できる。法律で、投資分野の法律改正に対する保証期間が10年と定められている。つまり、現行法制下で署名された契約は、10年間、法律の変更による条件の変化から守られるまた、新しい法律を適用するか、従前の法律を適用するかを選択する権利も与えられている。トレンドやゲームのルールが頻繁に変更される中央アジアでは、こうした権利は外国企業に有益である。

タジキスタン経済の貴重な切り札となるのが、自由経済特区である。現在タジキスタンには５つの経済特区が形成されている。ソグド、ダンガラ、ピアンジ、クロブ、イシカシムである。自由経済特区ならではの税制・関税制度が適用されている。特恵的制度であり、社会税と個人所得税を除き、企業は実質的に全種類の税金・関税が免除されている。タジキスタンの自由経済特区に関するより詳細な情報は、在日タジキスタン共和国大使館経由で入手可能である。

特典に関して、現在のタジキスタンの法制度では、税制および関税の分野で110以上の投資特典が規定されている。20万ドル以上の投資の場合、投資額により２年間から５年間、法人税が免除される。例えば20万ドル以上50万ドル未満の投資の場合、法人税の免税期間は２年間となっている。投資額が大きければ大きいほど、免税期間は延長される。

エネルギー産業、農業、軽工業、観光業、建設業がタジキスタンの主要セクターである。なぜ、エネルギー部門と観光なのか？タジキスタンは豊かな水資源に恵まれており、水力発電で生産した電力を廉価で隣国諸国に供給している。そしてまだ開発されていない大きなエネルギーポテンシャルがある。

さらに、我が国には複数の国家投資プロジェクトが存在していることも指摘しておきたい。これらのプロジェクトでは、35億ドル以上の投資が誘致されており、ビジネスの発展を促すイ

ンフラ整備に充てられている。インフラ整備により、さらなる投資を呼び込む条件が整備されることになる。この35億ドルのうち60％以上が、世界銀行、アジア開発銀行、欧州復興開発銀行という大手開発銀行によるものである。日本もこれらの機関のメンバーであり、コントラクターとしてプロジェクトに参加する可能性もあると考えている。そこから我々の協力関係の第一歩を始めることもできるのではないだろうか。

そしてもちろん、タジキスタンとしては物流とエネルギー産業の発展に力を傾注したい。物流の可能性に関しては、過去数年間に輸送セクターで53のプロジェクトが実施され、総長2,200km以上の国際級の道路が建設されている。これらの道路は国際輸送回廊の一部となっている。

現在、運輸セクターで、総額８億ドルの15の投資案件が実施段階にあり、さらに総額８億ドルの10の投資案件が計画されている。

日本ではPPP（官民パートナーシップ）プロジェクトが優先分野の１つであると聞いているが、総額約１億ドルの大規模プロジェクトの１つが、運輸分野で実施された。このプロジェクトは現在も稼働中で、現在に至るまで物流部門の整備に役立っている。

物流の可能性に話を戻す。開発銀行－具体的にはADB－の支援により、６つの国際輸送回廊のうち、タジキスタン領内を経由する４つの回廊が特定された。タジキスタンは海に面していない。だがこの回廊のおかげで、イラン、パキスタンなど諸外国の国際的な港へのアクセスが可能になった。まさにここに輸送の可能性を見出すことができる。日本企業はこの輸送可能性を生かし、タジキスタンを経由して隣国の地域市場に進出することができる。

エネルギー産業の可能性について指摘しておきたい。現在、タジキスタンの電力分野の潜在能力の95％が未開発である。タジキスタンは計5,270億kw/h（年間）のエネルギー潜在能力を有しているが、95％が未使用のままなのだ。このことから、電力分野は合弁企業設立の可能性が高い分野であると言える。もう１つ申し上げておきたいことは、電力分野で日本側が100％出資する合弁企業の設立も可能だということである。我々はこのセクターの発展のための投資プロジェクトの条件整備を進めてきた。つまり、投資プロジェクトに必要なインフラはすでにほぼ整備されているのである。国内の電力需要は十分満たされているため、タジキスタンは、パキスタン、アフガニスタンからウズベキスタンやキルギスに至るまで、隣国に電力を輸出することができる。

全体として、投資のためのインフラは、基本的に輸送と電力に集中している。タジキスタンでは、電力分野の巨大プロジェクト、具体的には、発電能力3,600MWのログン水力発電所建設プロジェクトが進行中である。このようなプロジェクトは他に例を見ない。本計画が成功裏に竣工したら、エネルギー産業のポテンシャルは拡大の一途をたどり、アフガニスタンやパキス

タンへと電力輸出は増加していくだろう。

エネルギー部門に関しては、水力発電所建設に対する特恵条件が設定されている。具体的には付加価値税、自動車道路使用税、法人税などの免除である。英語版、ロシア語版の全特恵条件のリストは大使館で入手可能である。

タジキスタンのビジネス環境は非常に良好である。シェラリゾダ第一副議長やジャロロフ駐日大使が言及したように、法的基盤が整備されており、また、世界39カ国と「投資の相互促進及び相互保護」に関する協定が締結されている。さらに、投資保護に関する７つの多国間協定に参加し、二重課税防止協定は35カ国と締結済みである。

ビジネス環境の整備に関する我々のこうした取り組みが、日本企業の皆様に良いニュースとなることを期待している。近い将来、日本企業や関係省庁と共にこの協定を締結できればよいと考えている。この「投資の相互促進及び相互保護」協定締結国リストに、日本が追加されるのはそう遠い話ではないであろう。

おそらく、どの投資家もこう質問するだろう。なぜタジキタンなのか？まず、タジキスタンは世界銀行の「Doing Business」による世界の「最も改善した国」で４度、上位10カ国にランクインしている。これは、タジキスタンがより良い投資環境を志向しており、タジキスタン政府は世界の実務状況と国際的経験を念頭におきつつ、ビジネスのための条件を整備していることの証明である。もう１つの要素は、世界銀行のデータによればタジキスタンが世界第６位のグリーンエネルギー利用国ということである。タジキスタンのエネルギーの99％以上が再生可能エネルギー、つまり水力発電によるものである。

さらにイギリスの雑誌『ワンダーラスト・トラベル』誌によれば、ビザ手続きの簡略さにおいてタジキスタンは４位に格付けされている。タジキスタンを訪問予定の観光客は、専用のポータルサイトを通じてビザの取得手続きが可能である。このように観光客の拡大に向けた支援も行っている。

別の要素として挙げることができるのが、ギャラップ社による「世界で最も安全な国」ランキングである。このランキングでは、タジキスタンは２位に格付けされている。中央アジア地域が抱える安全面での懸念材料にもかかわらず、タジキスタンは安全性が高い国に分類されていのだる。

また2014年には、最も魅力的な観光先リストに加えられた。全体としてタジキスタンは、観光部門の発展を目指しており、この部門にできるだけ大きな投資を誘致しようとしている。なぜなら、ポテンシャルがあるからである。例えば、ある地域では雪のときに、別の地域では太陽が降り注いでいるなど、タジキスタン国内にいながらにして、同時に４つの季節を体験することもできるのである。

投資の可能性について話を戻すと、タジキスタンには投資誘致と投資プロジェクトの組織を担当する国の機関がある。また、投資環境改善のための諮問会議もある。国内のビジネス環境改善のために然るべき方策を講じ、また、モニタリングを実施するこの諮問会議は、2007年に大統領府に設置された。さらに、タジキスタンへの投資誘致を担当する「Tajinvest」という特殊企業も存在している。この他、2013年に設立された「PPPプロジェクト実施センター」や、活動実施のためにJICAから活動資金援助を受けた「ビジネス・インキュベーター」もある。

投資家であれば、商品を販売促進できる国に関心があるであろう。どこに商品を売るか、どんな可能性があるのか､隣接する国々や地域と商取引をする際の特典は何か｡こうしたことは、投資を考えるとき、常に発せられる問いかけである。2013年にタジキスタンは世界貿易機関に加盟した。タジキスタンはEUの一般特恵関税制度（GSP）加盟国であり、タジキスタンは貿易ポータルサイトも開設している。また、CIS諸国の自由貿易圏創設協定も締結している。タジキスタンはこの地域で唯一、貿易相談の窓口を一元化、つまり貿易に関する窓口が１つに集約されている国でもある。

一連の改革のおかげで、タジキスタンには国際的な企業が誘致された。近い将来、日本企業や世界的な日本ブランドが、タジキスタンで活動する企業の仲間入りをすることを期待している。

最後に、本日のウェビナーの結果、より緊密な連携が生まれることを期待している。また、在日タジキスタン大使館を通じて協力していく用意も、必要な情報を提供する用意もある。

ご清聴ありがとうございました。

タジキスタン共和国
投資・国有財産管理国家委員会
タジキスタンへの投資
グリーン経済への投資を

タジキスタン共和国
ロシア連邦
カザフスタン
ウズベキスタン
キルギス
イラン
アフガニスタン
パキスタン
サウジアラビア
インド
中国
日本
首都: ドゥシャンベ
国土: 14万2,600km²
人口: 900万人
宗教: イスラム教95%超
通貨: ソモニ(TJS)
国コード: +992
タイムゾーン: UTC+5
ボフタル
ドゥシャンベ
フジャント
ホログ

Invest in Tajikistan!
Let's grow together!

国家戦略・プログラム

2030年までのタジキスタン共和国国家発展戦略

4つの戦略目標:

1) エネルギー自給の確保
2) 情報隔絶からの脱却
3) 食料の安全保障
4) 工業化の加速

2021～2025年におけるタジキスタン共和国の中期発展プログラム

2021～2025年におけるタジキスタン共和国の迅速な工業化プログラム

Invest in Tajikistan!
Let's grow together!

タジキスタン共和国大統領教書演説における タジキスタン共和国議会への幾つかの指摘

① 国際財務報告基準、および電子調達システムをはじめとする電子財政システムへの移行

② 経済活動にかかる申請の提出・審査、ならびにライセンス・許可・情報の発行に係る電子システムの導入

③ タジキスタン共和国大統領付属イノベーション・デジタル技術庁の設立

Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

マクロ経済

部門別にみるGDPの構造

Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

外国投資の流入額

（単位:100万米ドル）

2020

FDI	その他
162.5	265.9
-53%	+1.8%

2019

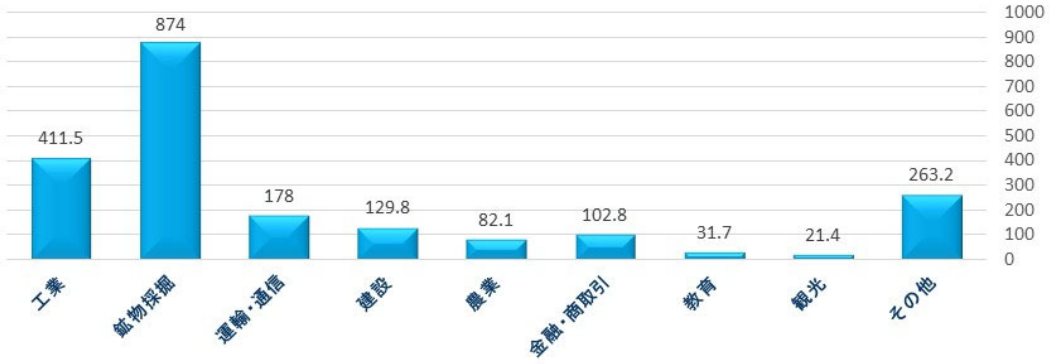
FDI	その他
345.9	261.1
+5.8%	-17.8%

Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

部門別にみる外国直接投資の流入額

2015～2020 合計（単位:100万米ドル）



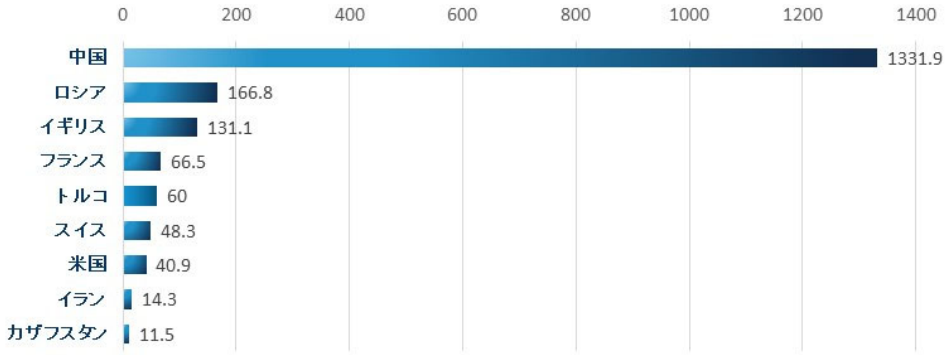
Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

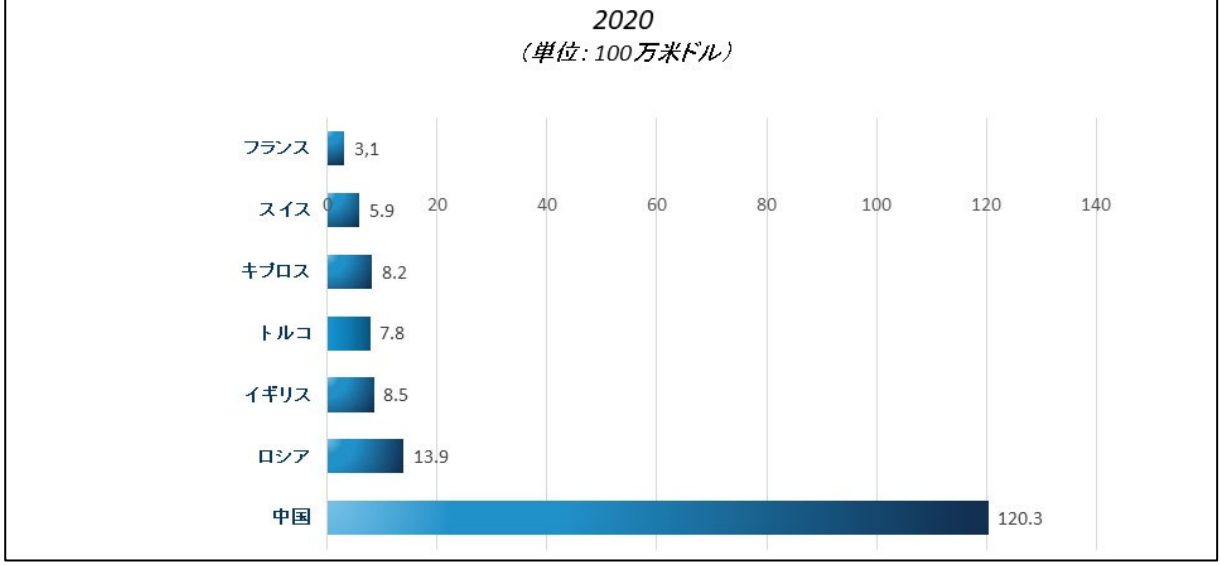
出資国別にみる外国直接投資

2015～2019

（単位:100万米ドル）



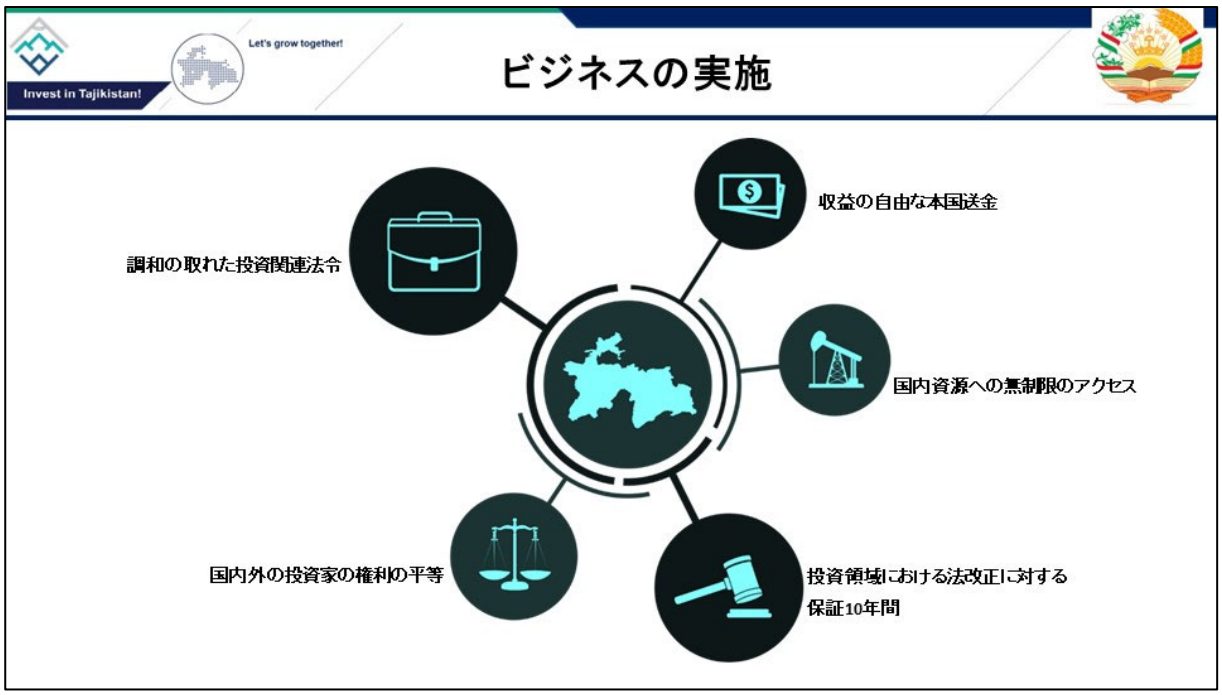
出資国別にみる外国直接投資

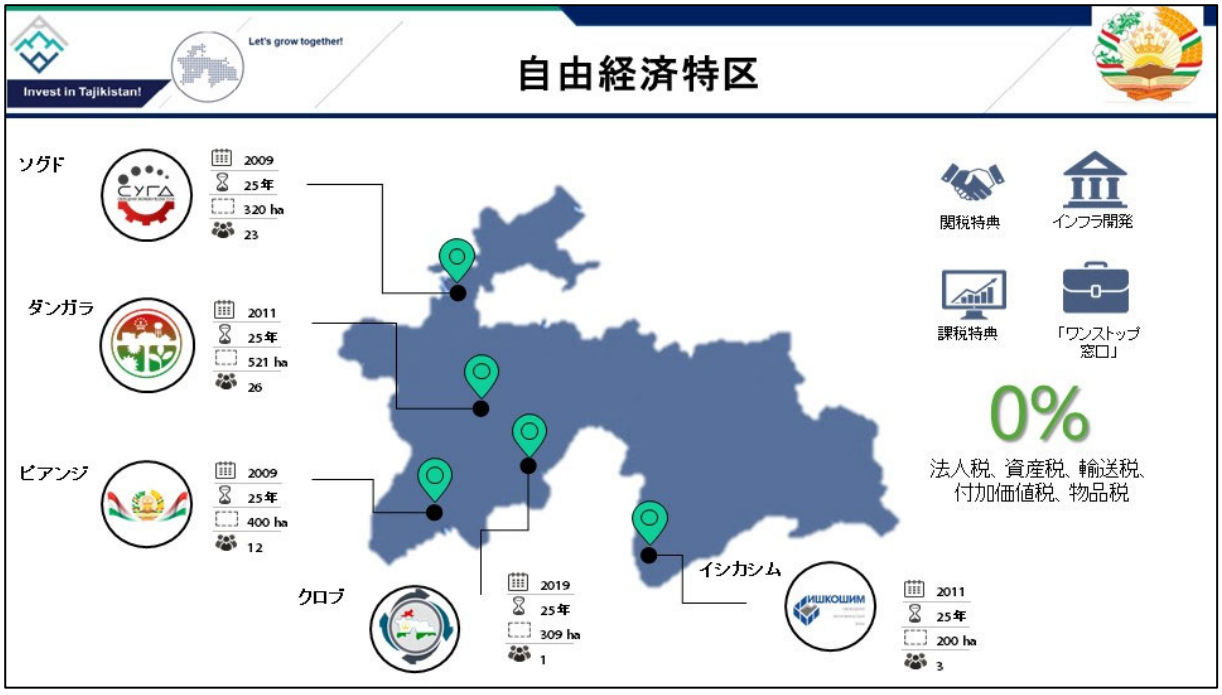


将来性の高い部門

輸入代替＝投資の機会

経済活動分類	商品・サービスの輸入300グループ
▪加工業	168
▪農業・林業・漁業	53
▪鉱業	53
▪物流（商品の輸送・保管）	14
▪ユーティリティ（電力・ガス・蒸気・空調システム）の供給	4
▪建設	5
▪宿泊・飲食	4
▪情報・通信	2
▪金融サービス・保険	1
▪行政・関連業務	1
▪教育	5
▪保健・福祉	3


Invest in Tajikistan!
Let's grow together!
ビジネスの実施
収益の自由な本国送金
調和の取れた投資関連法令
国内資源への無制限のアクセス
国内外の投資家の権利の平等
投資領域における法改正に対する
保証10年間


Invest in Tajikistan!
Let's grow together!
自由経済特区
ソグド
2009
25年
320 ha
23
ダンガラ
2011
25年
521 ha
26
ビアンジ
2009
25年
400 ha
12
クロブ
2019
25年
309 ha
1
イシカシム
2011
25年
200 ha
3
関税特典
インフラ開発
課税特典
「ワンストップ窓口」
0%
法人税、資産税、輸送税、
付加価値税、物品税

共通の特典

関税・税制関連の法令に基づき、投資家と企業家に対しては、
法人税の免除をはじめ110を超える特典が存在している

単位：100万米ドル

優先分野

エネルギー　農業　軽工業　観光　建設

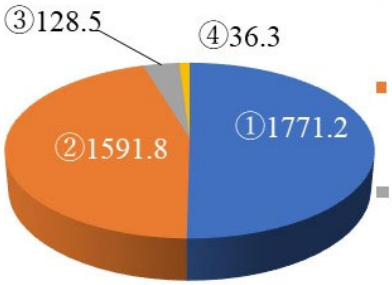
Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

国家投資プロジェクト

70の国家投資プロジェクト総額およそ35億ドル

投資ポートフォリオの構成
（単位：100万米ドル）



- 融資 ①
- グラント②
- タジキスタン政府 ③
- その他の財源 ④

アジア開発銀行 24.2%
世界銀行 21.4%
欧州復興開発銀行 18.1%

国家投資プロジェクトのポートフォリオにおける開発銀行3行のシェアの合計は64%

Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

タジキスタンの物流・トランジットの可能性

～20億米ドル
- 運輸分野で53のプロジェクトを実施
- 国際レベルの道路2,200km超

～8億米ドル
- 現在、運輸部門では15の投資プロジェクトが実現段階にある

～8億米ドル
- 運輸部門ではさらに10の投資プロジェクトが計画されている

国家プログラム「2010～2025年におけるタジキスタン共和国の運輸開発」
2020～2025年 第3段階

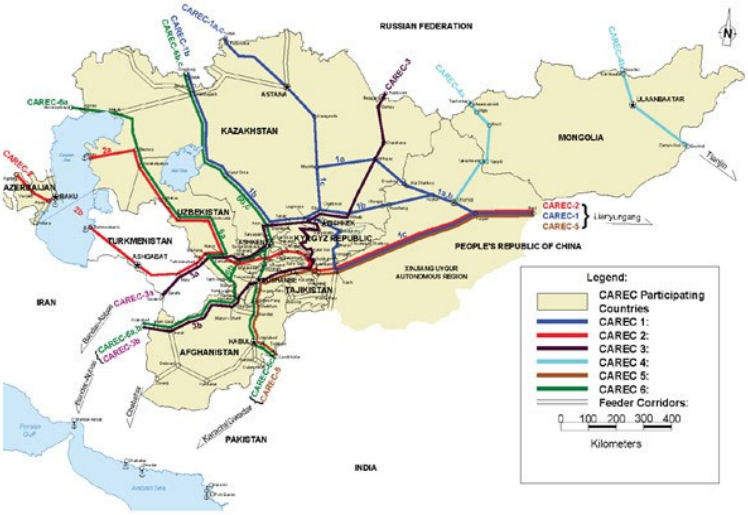
運輸部門における最大規模の官民パートナーシッププロジェクトの予算は1億米ドル超である

タジキスタンは国際競争力レポート（Global Competitiveness Report）の一環として毎年実施される全世界調査におけるランキング「道路網の質」部門で、過去2年の間に順位を20位上げた。

Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

タジキスタンの物流・トランジットの可能性



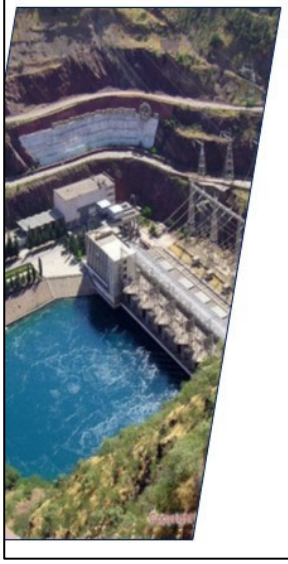
アジア開発銀行によって6つのCAREC物流回廊が開発された：

- 回廊1：ヨーロッパ～東アジア
- **回廊2：地中海～東アジア**
- **回廊3：ロシア連邦～中東・南アジア**
- 回廊4：ロシア連邦～東アジア
- **回廊5：東アジア～中東・南アジア**
- **回廊6：ヨーロッパ～中東・南アジア**

Invest in Tajikistan!

Let's grow together!

水力発電



5,270億kWh 総ポテンシャル

95% 活用されていない

市場

- 総ポテンシャルは5,270億kWhであるが、このうち95%が開発と投資を待っている状況である
- 独立以来、283基の小規模水力発電所が操業を開始しており、その総発電能力は3万kWを超えている

目標

- 小規模水力発電所の建設
- 高圧送電線建設投資プロジェクト
- 既存の水力発電所の修繕（例：ヌレク水力発電所、3,000MW）
- 新たな大規模水力発電所の建設（例：ログン水力発電所、3,600MW）
- その他の再生可能エネルギー源の活用（風力、太陽光）

Invest in Tajikistan! Let's grow together!

電力販売と収益

➢ 国際送電インフラ

● 既存の送電線

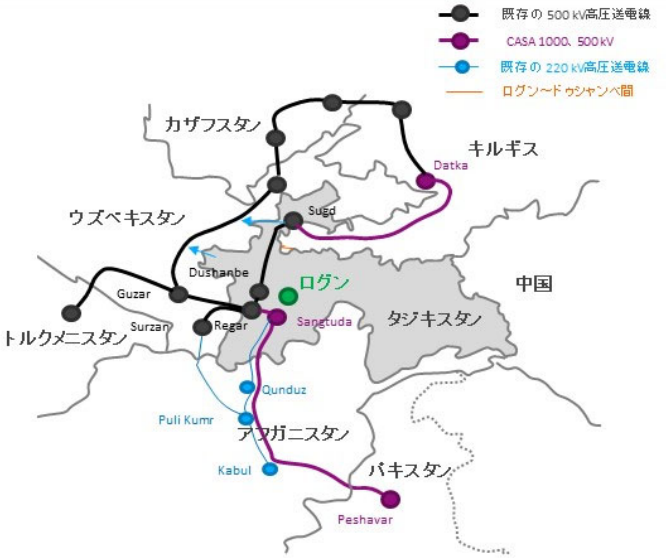
高圧送電線 110kV・60MW、タジキスタンとアフガニスタンを結ぶ2回線高圧送電線 220kV・500MW(2011年)

タジキスタンとウズベキスタンを結ぶ多導体送電線
(2×500kV、4×220kV)

タジキスタン共和国はアフガニスタン・ウズベキスタン・カザフスタン・トルクメニスタン市場へのアクセスをすでに手にしている

● 建設予定の送電線
- CASA 1000はキルギスとタジキスタンをパキスタンへ接続(500kV、1,300MW)、2021年に操業開始
- ログン~ドゥシャンベ間の500kV送電線2基が着工
これはログン水力発電所で生産された電力を送電するものとなる

2022年、タジキスタン共和国はパキスタン市場へのアクセスを獲得する



Invest in Tajikistan! Let's grow together!

投資家向けの特典

水力発電所

水力発電所の建設にあたり、投資家と元請業者は下記の納付を全部または部分的に免除される:

- 付加価値税
- 自動車道路利用税
- 法人税(簡易制度で納付される税)
- 自動車税
- 固定資産税
- 水力発電所建設に直接従事する外国人に対する社会税
- 水力発電所建設との関係で実施される民間債券発行趣意書の登録に係る手数料

特定重要施設である水力発電所の建設を目的とした商品の搬入は、関税の納付を免除される

Let's grow together!

Invest in Tajikistan!

投資の保護

39

・投資の相互促進及び相互保護

・アルジェリア、アルメニア、オーストリア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ベルギー、BLEU(ベルギー・ルクセンブルク経済同盟)、中国、チェコ共和国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イラン、カザフスタン、クウェート、キルギス、リトアニア、ルクセンブルク、モルドヴァ、モンゴル、オランダ、パキスタン、スロバキア、スペイン、スイス、シリア、トルクメニスタン、ウクライナ、アラブ首長国連邦、ウズベキスタン、ベトナム

7

・多国間における投資の保護

・ユーラシア経済連合加盟国における投資の奨励と相互保護に関する協定
・経済協力機構投資協定
・EU-タジキスタン間パートナーシップ協定
・米・中央アジア貿易投資枠組協定（TIFA）
・CISにおける投資家の権利に関する条約
・エネルギー憲章に関する条約
・イスラム協力機構投資協定

35

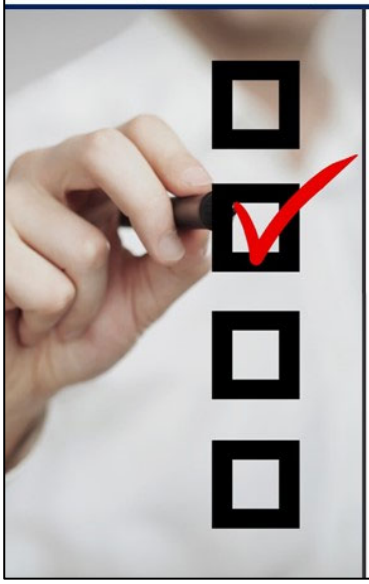
・二重課税の回避

・キルギス、カザフスタン、ロシア、ベラルーシ、アルメニア、アゼルバイジャン、ウクライナ、ポーランド、モルドヴァ、チェコ、トルコ、イラン、ドイツ、インドネシア、パキスタン、イギリス、クウェート、マレーシア、カタール、オーストリア、タイ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、ベトナム、韓国、ルーマニア、バーレーン、フィンランド、スイス、ウズベキスタン

Let's grow together!

Invest in Tajikistan!

なぜタジキスタンなのか



- ☑ 世界銀行の Doing Businessで、2010年、2011年、2015年、2019年に「改善国トップ10」に入った
- ☑ タジキスタンにおける貧困削減は過去15年間、世界のトップ10に入っている（83%から31%へ）
- ☑ 米国で世論調査に携わるGallup社のランキングによると、タジキスタンは世界で最も安全な国家第2位となっている
- ☑ 世界銀行のレポートによると、「グリーンエネルギー」利用率では世界第6位である（電力の99.56%）
- ☑ イギリスのWanderlust travel誌によると、ビザ取得手続きが簡素化されている国ランキングでは4位である
- ☑ 2014年の「最も魅力的な観光先」トップ10に入っている（「地球上の地点」）

Invest in Tajikistan!
Let's grow together!
タジキスタンにおける投資推進関連の
官庁及びポータルサイト
BUSINESS
PORTAL
データベース
資金提供源
投資プロジェクト
法令文書
支援
法的問題
税務コンサルティング
タジキスタンのビジネスに関するあらゆる問題
地元企業家のポテンシャルの増大
情報源
ビジネス運営
投資の可能性
パートナー開拓
www.b2b.tj
www.businessportal.tj
Consultative Council on Improvement of Investment Climate under the President of Tajikistan
was established in 2007
www.investmentcouncil.tj
State Unitary Enterprise "Tajinvest"
was established in 2010
www.tajinvest.tj
The State Institution
"Public Private Partnership in Tajikistan"
was established in 2013
www.ppp.tj
The State Institution
"Business Incubator of Tajikistan"
was established in 2018
www.bizincubator.tj

タジキスタンにおける新たな可能性の構築手段としての貿易支援
WORLD TRADE ORGANIZATION
タジキスタンはWTO加盟国である（2013年3月2日より）
www.wto.org
CIS諸国自由貿易協定（CIS FTA）は2011年に署名された
http://www.ccis-expertise.com/en/cis-export
タジキスタンは「輸出入・トランジット取引登録のためのワンストップ窓口」を取り入れた中央アジア初の国家である（2020年9月1日より）
GSP hub
タジキスタンはEUの一般特恵関税制度（GSP）加盟国である（2014年7月4日より）
www.gsphub.eu
TAJIKISTAN TRADE PORTAL
タジキスタン貿易ポータルサイトは中央アジアで初めてスタートしたものである（2019年4月より）
www.taitrade.ti
European Commission
登録輸出者システム（REXシステム）への申請年月日：2020年10月26日

Invest in Tajikistan!
Let's grow together!
国際企業
ALSTOM
Hilton
DUSHANBE
FINCA
Coca-Cola
seoul
Seoul Machinery Co.,Ltd
flydubai
TRANS TAJIK GAS PIPELINE
GLENCORE
salini impregilo
HYUNDAI
KIA
KIA MOTORS
SCHIEVER
Tcell
Auchan
VEDANTA
MEDICAL CENTER
TOTAL
European Bank
for Reconstruction and Development
SAMSUNG
SILKCOAT
China Non Ferrous Gold (Pakrut)
SIEMENS
VINCI
ENERGIES
KALPATARU
QATARI DIAR
THE ART OF REAL ESTATE
Regus
МегаФон
THALES
GAZPROM

ご清聴ありがとうございました！
タジキスタン共和国
投資・国有財産管理国家委員会
info@investcom.tj
www.investcom.tj
国営単一企業
Tajinvest
info@tajinvest.tj
www.tajinvest.tj

ガドエフ･ZAO「アヴァリン」 社長　 報告

尊敬するウェビナー参加者の皆さま、こんにちは。意義深いウェビナーに参加し、タジキスタンにおけるビジネスの実績を話す機会を与えてくださったROTOBOに御礼申し上げる。この発表では、最初にタジキスタンのビジネス環境について、次に日本・タジキスタンの唯一の合弁会社について報告する。

私が申し上げたいことのいくつかは､すでに私の同僚たちや投資委員会が報告しているため、重複を避け、簡潔な報告とする。

タジキスタンの近年の発展は目覚ましい。外国投資が年々増加していることがその証左である。タジキスタンは、発展に向かって正しい道を歩んでいるが、行く手には多くのことが待ち構えている。したがって我々は、今後共に道を歩んでいけるパートナーを探している。それもあって、本日このウェビナーに参加した。

どの国にも､投資家を惹きつける投資の特徴がある｡タジキスタンについては､政治的安定、民間セクター発展に向けた適切な法制度、適切な投資条件や地理・気候条件、天然資源・鉱物資源へのアクセシビリティ、安価で熟練した労働力など、極めて肯定的な面を挙げることができる。

市場経済発展に向けた条件創出と共に、外国投資誘致や国際貿易発展はタジキスタン政府の優先課題である。投資の可能性を効果的に利用し、生活水準を向上させるために、タジキスタン政府は、現行法制が市場経済の要求と世界の発展プロセスに合致するよう常に対策を講じている。タジキスタンの法制度は投資家に対し、幅広い保証と補助金を提供している。投資家に対し、収益や給与を無制限に外貨で外国送金する権利が認められている。

すでに指摘されているが､再度繰り返したい｡新規企業は､その投資額に応じ、２～５年間、法人税が免除される。投資に関する法制度の変更・追加がなされた場合、変更から５年間、投資家は変更前か後か自身にとってより許容できる法的環境を選択できる権利を有している。さらに新しい法律「投資契約法」の適用に際し、大規模プロジェクトの投資家は、政府から追加的な特典と保証を受けることができる。

このように、タジキスタンは現代的法制度を有する国である。投資プロジェクトへの参加について、ほぼあらゆる参加形態が法律によって認められており、国と民間セクターの間の投資契約や生産物分与契約､コンセッション契約またはスポンサー契約により､利益が保証される。

ではここから、日本・タジキスタンの合弁企業である弊社について説明する。この合弁企業「アヴァリン」の日本側株主は、著名な日本企業「宏輝システムズ株式会社」である。宏輝は全面的に我が社を支援し、毎年の生産量拡大のために努力してくれており、我々は大変感謝し

ている。

弊社の活動は甘草と深く関係している。弊社は甘草を栽培し、収穫し、根を加工し、国際的にグリチルリチン酸（CGA）と呼ばれるエキスを生産している。このエキスは、製薬、医療、食品産業、美容産業で利用されている。

弊社はタジキスタン南部のカバディヤン地区とシャルトゥーズ地区に約2,000haの土地を所有している。工場の設計能力は、年間2,000ｔの甘草根の加工が可能であり、現在、年間140ｔのグリチルリチン酸を製造している。製造過程では、硫酸と水酸化アンモニウムが使用される。

弊社では正社員約70名の他、季節労働者として約500名が働いている。このことからも、弊社の重要性がお分かりいただけると思う。

CGA生産工場では粉末にした甘草の根を、«Made in Tajikistan»と書かれた600kgのフレキシブルコンテナに梱包し、日本に直送している。

ではここから、ロジスティクスについて簡潔に述べたい。タジキスタンは様々な国との間に直行便を持ち、その地理的優位性を生かし、トランジット国としての機能を果たしている。一方、先に述べた通り弊社は自社製品を日本に直接輸送しているが、主として陸路と海路を使っている。

３つのルートがある。１つ目は、カバディヤン地区、つまり、タジキスタンからイランまで自動車で陸送し、イランのバンダレ・アッバース港から大阪港まで海上輸送するルートで、輸送期間は40～50日である。２つ目は、トルコのメルスィン港を経由するルートである。メルスィン港までは自動車輸送、メルスィン港から大阪港までは海上輸送であり、輸送必要日数は50～60日。第３のルートは、隣国ウズベキスタンのタシケントまで自動車輸送し、タシケントからナホトカのボストチヌィ港までを鉄道で、ボストチヌィ港から大阪港までを海上輸送するルートである。このルートの場合、輸送日数は35～40日である。

日本政府は、タジキスタンの経済・社会発展のためにJICAや在タジキスタン日本大使館を通じて多大な支援をしてくれていることを強調しておきたい。

アヴァリンは、JICAとも在タジキスタン日本大使館とも緊密な協力関係を築いている。2013年３月から2016年３月にかけて実施された、JICAの３年間BOPプロジェクトを例に挙げるなら、アヴァリンの甘草根の販売により世帯収入を向上させるために、カバディヤンとシャルトゥーズに農民グループが作られた。甘草の栽培実験のための耕作地とパイロット地区が作られた。これは将来の甘草供給源拡大のために実施されたものである。

また2016年には、製造物の再利用を目的とした素晴らしいJICAプロジェクトがスタートした。このプロジェクトにより、加工後の甘草の根の外皮を廃棄せず、圧縮して練炭を作るようになった。練炭は最もエコで安全な燃料である。弊社はカバディヤン地区の学校と病院に、冬季の

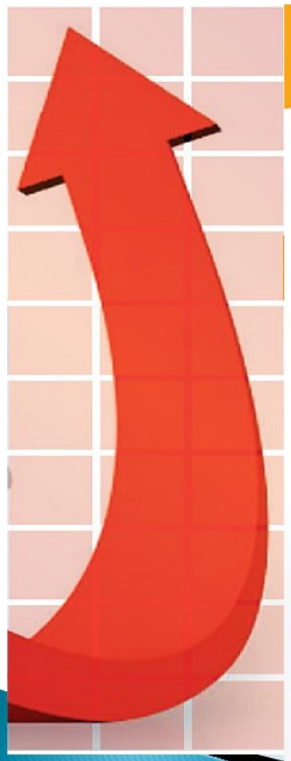
暖房用に練炭を供給している。

甘草栽培の目的は、甘草資源を増加させることにある。本日現在、100ha以上の土地で甘草を栽培し、毎年約50haずつ栽培面積を増やしている。

弊社が2020年末までの10年間で加工した甘草の根は１万ｔ以上であり、968ｔ以上のCGAを生産した。CGAの販売総額は約6,400万ソモニであった。アヴァリンから国庫への納入額は1,500万ソモニである。つまり弊社はハトロン州経済、タジキスタン南部地域の経済において重要なウエイトを占めているのである。

以上、私が申し上げたかった主要点である。タジキスタンの扉は、外国企業にいつも広く開かれており、政府は、タジキスタン経済の発展を目指した投資プロジェクトを支援する準備ができていることを強調しておきたい。タジキスタンで成果を出したいと望むあらゆる企業、あらゆる企業家にとって、タジキスタンにはすべての条件が揃っていることを伝えたい。最も重要なことは、意思を持ち努力することである。タジキスタンではたくさんの良きことを成し得ることができる。タジキスタン経済へのすべての企業家の投資を歓迎する。

ご清聴ありがとうございました。

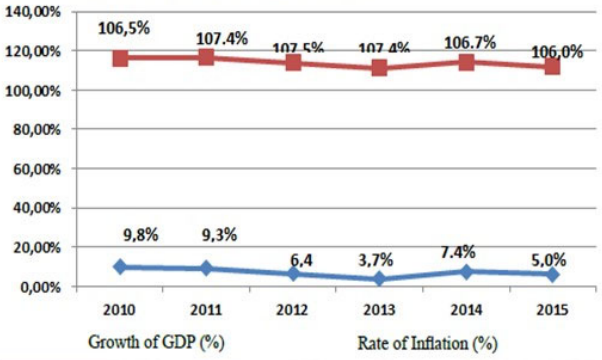


// Stability

- Political stability;
- Sustainable economic development: average annual growth rate of GDP – 7%;
- Rational macroeconomic management.

Main indicators	2010	2011	2012	2013	2014	2015
GDP (in USD)	5641,6	6523,6	7592,6	8508	9241,4	6222,8
Growth trend of (GDP)%	106,5	107,5	107,5	107,4	106,4	106
GDP per capita (in USD)	745	846,3	963,7	1042,4	1106,6	777,9
Rate of inflation	9,8	9,3	6,4	3,7	7,4	5
Foreign trade turnover (mln. USD)	3851,6	4463,3	5138,1	5284,7	5316,2	4325,5

Tajikistan is a member of more than 30 international organizations (UN,WB, IMF, ADB, IBD, IFC, OSCE,WTO and other.)



Tajik – Japanese Joint Venture "Avalin"

- **JSC "Avalin"** – the first Joint venture between Japan and Tajikistan in history
  - Location: Qubodiyon region, Khatlon Oblast, Tajikistan
  - Registration: Apr. 16, 2009
  - Start of activity: Sep. 22, 2011
- **Type of activity**: cultivation, collection and processing of Licorice Roots, export of CGA (Crude Glycyrrhizin Acid – Licorice Roots extract in the form of brown powder)
- **Lands**: 1442 ha in Qubodiyon and 433 ha in Shartuz regions
- **Annual production volume**: processing of 2000 tons of roots (projected capacity), 140 tons production of CGA (actual)
- **Main components**: Licorice Roots, Sulphur Acid (95%), Ammonia Water (25%)
- **Staff**: Main Office – 5 p., CGA Plant – 63 p., seasonal – almost 500 p.

20

目の覚めるような
爽快感
SUPER
COOL 15mL
クリスタルクール
王老吉
8代目 2012
新・宮迫
SCALP-D
S T A S H
HERBAL TEA
Licorice Spice
Caffeine Free
20 TEA BAGS
NET WT. 1.2 OZ. (36g)
20mL

Economic Indicators:

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	Total
Roots Collection, tons	565	446	788	579	1 099	1 023	883	772	713	895,15	7763,15
Roots Purchase, tons	100	200	-	65	150	300	430,2	398,4	333,7	290,2	2267,5
Roots processing, tons	-	1031	986	668	1 270	1 311	1209,5	1427,8	1239,6	1071,2	10214,1
CGA Production, tons	-	101	92,7	69,6	116,7	124,8	115,2	132	113,6	102,73	968,33
CGA Export, tons	-	101	92,1	68,4	105,3	114	114	158,4	113,6	97,33	964,13
CGA Sale, somoni	-	5 651 779	6 036 307	5 201 865	9 125 788	9 180 564	8 706 215	11 448 653,9	8 523 903	8 352 173	63 875 075
Taxes and duties, somoni	503 590	994 034	978 660	958 745	2 117 472	2 546 489	1 682 189	1 625 314	1 666 381	2 035 290	15 108 164

More information can be found on the official websites and in legislative acts of the Republic of Tajikistan

PUBLIC AUTHORITIES (OFFICIAL WEBSITES)

1, The President of the Republic of Tajikistan - **www.president.tj**

2, The Parliament of the Republic of Tajikistan - **www.parlament.tj**

3, State Committee on Investments and State Property Management of the Republic of Tajikistan - **www.amcu.gki.tj**

4, The Ministry of Justice of the Republic of Tajikistan - **www.minjust.tj**

5, National Bank of Tajikistan - **www.nbt.tj**

6, The Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Tajikistan - **www.mfa.tj**

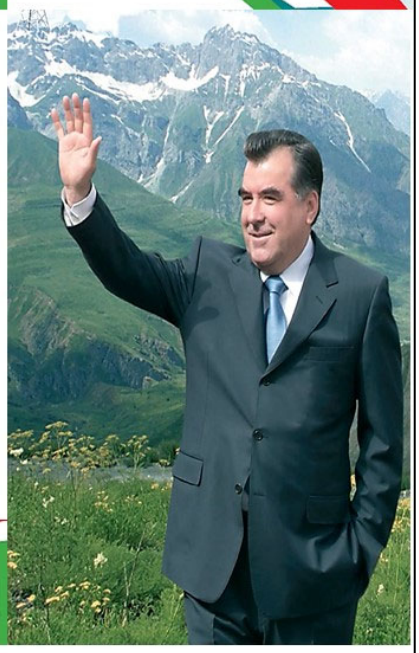
7, National Centre for Patents and Information of the Republic of Tajikistan - **www.tjpat.org**

8, State Committee on Statistics of the Republic of Tajikistan - **www.stat.tj**

9, The Ministry of Economic Development and Trade of the Republic of Tajikistan - **www.medt.tj**

10, Tax Committee under the Government of the Republic of Tajikistan - - **www.andoz.tj**

11, Customs Service under the Government of the Republic of Tajikistan - - **www.customs.tj**



Invest in Tajikistan!!!

Thanks for your attention.
Manuchehr Gadoev, CEO
Tajik – Japanese
Joint Venture
"AVALIN"
m.gadoev@avalin.tj
+992 900 905 901

質疑応答

モデレーターからの質問:

潜在的可能性のあるセクター、重点分野が数多く紹介されたが、日本との協力可能性がもっとも高い分野はどれか？

シェラリゾダ投資・国有資産管理委員会第一副議長の回答:

ご質問に感謝する。どの部門でも協力する用意があることを指摘しておきたいが、最初に申し上げたいのは観光である。なぜなら、日本からは建築物を見に多くの観光客が外国を訪問するとのことなので、タジキスタンの首都も楽しんでいただけると思うからだ。観光業は、協力の潜在的可能性があるセクターのなかで１番の分野である。繊維産業に関しては、タジキスタンは綿花セクターが発展しており、このセクターでの合弁企業設立を検討する用意がある。エネルギー産業に関しては、再生可能エネルギー、代替エネルギーを問わず、タジキスタンは、グリーンエネルギーや太陽光、風力その他の代替エネルギー分野で最も先進的な主要国の１つである。

現在、タジキスタンでは、IT パーク創出や IT パークに対する課税を盛り込んだ新しい税制が策定されている。いくつかの優先事項があり、優先分野についてより詳細な情報を提供する用意がある。

また、農業分野について付け加えておきたい。タジキスタンの果樹、野菜は、化学肥料を使用せずに栽培されたクリーンなものである。とても美味でユニークなドライフルーツの輸出は１つの可能性である。この方向性でも、我々は日本と一緒に仕事をする必要があると考えている。

以上。ご質問に感謝申し上げる。